

■（４３）学級でざわつく児童の声をまとめるには…

小学校低学年の学級を取材で訪れたことがある。児童らに質問すると、興味がある内容だった場合、あちこちから答えが同時に出てきて収集がつかなくなった。慣れない状況におたおたしていると、担任の先生が手助けしてくれ、整理して話を聞くことができた。

放射性セシウムの汚染が各地で次々と表面化している。事故の原発から150キロ以上はなれた岩手県でも、汚染された稲わら、それを食べさせた肉牛が相次いで見つかった。宮城県や栃木県なども同様に発覚。流通した肉は全国各地で見つかった。

現場が広範囲だと、取材結果をどう集めるのか。近年はネットの威力を最大限に活用する。机上のパソコンを開けば、社内他地域他部門の記者が書いた原稿をすべて読むことができる。そのシステムで、同じテーマについてさまざまな角度からの情報を集約し、これも参照して原稿を書く。多種多様な情報を整理して状況を読み取るベテラン記者が、かつて手助けしてくれた「先生」に見えてくる。

震災の当初は膨大な量の情報が本社に集まった。画面表示の限界を超えることもあった。被災地も変化する。最近は一人の記者がじっくり書いた長めの記事が増えている。(山)